

新潟県長岡市におけるチャキンチョウ *Emberiza bruniceps* の標識について

渡 辺 央(日本鳥類標識協会にいがたグループ)

はじめに

チャキンチョウ *Emberiza bruniceps* は、カザフスタン、イランなど中東・中央アジアで繁殖し、冬期はインドに渡る。日本には迷鳥として、これまで飛島、舩倉島、対馬などの日本海側の島や与邦国島でも記録がある(日本鳥学会 2012)。新潟県では1995年5月に粟島で観察記録がある(山階鳥類研究所 1995)。また佐渡島で1995年6月と2012年11月に1個体が観察されているが、籠抜けの可能性も指摘されている(日本野鳥の会新潟県 2010)。日本におけるチャキンチョウの標識は、1995年5月に飛島で雄1個体が標識、放鳥されている(山階鳥類研究所 1995)。

2015年10月12日、新潟県長岡市加津保町においてチャキンチョウ1個体を標識、放鳥したので報告したい。

1. 捕獲地と調査方法

捕獲地は、毎年ノジコの標識を行っている長岡市比礼の網場から西に約1.5km下った山麓の加津保町(37° 28' N 138° 55' E)である。ここはノジコの渡りを検証するために2日間だけ行ったもので、集落内の放棄水田跡のヨシ原に、網(36メッシュ、ATX)2枚を張り、午前6時30分から正午まで行った。

2. チャキンチョウの標識、放鳥

本個体は10月12日の午前8時の回収で網の最下段に掛かっていた。大きさはホオジロ大で、嘴が太く、尾が長く、腰並びに胸から下尾筒まで明るい黄色であった。背中の中雨覆、大雨覆の黒と羽縁の白さが目立った。頭部には黒い縦斑があり、胸にも疎らな縦斑が認められた。さらに、風切羽、雨覆、尾羽などは幼羽から第1回冬羽に換羽中と判断された。また性別については、腰並びに体下部の黄色と側頭部に一枚だけ黄褐色の羽毛が認められたことから、チャキンチョウの雄と判断し、写真を撮り、計測後に放鳥した。計測値は、全長168.5、自然翼長90.0、露出嘴峰長12.3、ふしよ長20.0、尾長74.0、体重は計測しなかった。

3. ズグロチャキンチョウとの識別

スベンソンの識別ガイド(2011)によれば、雌並びに1W換羽前の幼鳥ではズグロチャキンチョウとの判別が困難な場合があるとされている。しかしチャキンチョウでは背中が灰褐色でオリーブ色を帯びることはあるが、赤褐色であることは決してないという記述は、今回の長岡標識個体がチャキンチョウであることを支持する。しかし、翼長 <82 =チャキンチョウ、 >87 =ズグロチャキンチョウという点では、ズグロチャキンチョウの確率が高くなる。また雄の全嘴峰長 <15.8 =チャキンチョウ、 >16.8 =ズグロチャキンチョウとされる点では、今回の個体の15.7(全嘴峰長に換算)は幼鳥ということとを考慮すると微妙である。また他の図鑑にある、嘴の形が直線的=チャキンチョウ、湾曲的=ズグロチャキンチョウという点では、本個体はズグロチャキンチョウに近かった。

結論的には今回の個体は、チャキンチョウと判断されたが、両種の幼鳥の識別については今後も多くの事例のもとに検討されることを期待したい。

最後に本個体の換羽や年齢については千葉晃氏に助言をいただいた。鳥類標識センターにもお世話になった。